

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科 昼夜間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	呼吸発声発語系の構造機能病態		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 水曜	教室名	4校舎401
担 当 教 員	小川れい	実務経験とその関連資格	総合病院にて呼吸発声発語系の障害に対する言語聴覚療法業務に従事			
《授業科目における学習内容》						
音声はコミュニケーション手段の中心であり、現在の生活の中でも音声による伝達は非常に重要なものといえる。よって、コミュニケーション障害を扱う言語聴覚士にとっては、呼吸や発声発語に関する知識は欠かせないものである。この講義では、呼吸機構、発声発語系の構造から病態までの基本的な知識の獲得を目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
資料配布 パワーポイント						
《授業外における学習方法》						
復習は大前提ですが、自宅で復習できなかった時は、授業開始前に数分でも良いので前回分の内容を振り返ってください。						
《履修に当たっての留意点》						
今後言語聴覚士として学んでいく上で、土台となる科目です。1時限ごとに復習し、しっかり理解しながら進めて下さい。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系器官を覚え、呼吸の仕組みを説明できる。		資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸に関する解剖を見直す
		各コマにおける授業予定	呼吸器系の全体像、呼吸器系器官の概要について知る。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	肺の構造を覚え、呼吸器系のメカニズムを理解する。		資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸に関する解剖を見直す
		各コマにおける授業予定	肺の構造、呼吸機構について知る。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系のメカニズムを理解し、説明できる。		資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸に関する解剖を見直す
		各コマにおける授業予定	呼吸器系の構造、呼吸機構について知る。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能検査を説明できる。-1		資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸機能検査を見直す
		各コマにおける授業予定	呼吸機能検査(血液ガス分析・パルスオキシメーターなど)を学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能検査を説明できる。-2 呼吸機能検査とそれによってわかる呼吸器の障害を説明できる。		資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で拘束性換気障害を見直す
		各コマにおける授業予定	呼吸機能検査(スパイロメータ)でわかる呼吸器の障害(拘束性換気障害と閉塞性換気障害)について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	拘束性換気障害を引き起こす疾患について説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で閉塞性換気障害を見直す
		各コマにおける授業予定	拘束性換気障害について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	閉塞性換気障害を引き起こす疾患について説明できる。 呼吸器のリハビリテーション法について説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で呼吸機能検査について見直す
		各コマにおける授業予定	閉塞性換気障害と呼吸器のリハビリテーションについて学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	第1回～第7回までの内容を理解した上で説明できる。 喉頭(内喉頭筋)の構造と機能を図示し、説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書を見直し、喉頭の解剖を図解で描いてみる
		各コマにおける授業予定	中間テスト:第1回～第7回までの内容を復習する。 喉頭(内喉頭筋)の構造と機能を学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭(内喉頭筋)神経支配を説明できる。 喉頭(外喉頭筋)の構造と機能を図示し、説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で喉頭の神経支配を見直す
		各コマにおける授業予定	喉頭(外喉頭筋)の構造と機能を学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	声帯の構造を図解で示せる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で外喉頭筋を見直す
		各コマにおける授業予定	声帯の構造を学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭の生理的変化を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書を見直し、声帯の概要図を描いてみる
		各コマにおける授業予定	喉頭の生理的変化を学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害の概要・分類と器質的音声障害を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で喉頭の生理的変化を見直す
		各コマにおける授業予定	音声障害の概要・分類と器質的音声障害の特徴を学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経学的音声障害と機能的音声障害を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で音声障害の分類を見直す
		各コマにおける授業予定	神経学的音声障害と機能的音声障害の特徴を学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	構音器官を図示でき、構音障害の概要の説明と分類ができる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で声の異常にどのようなものがあったかを見直す
		各コマにおける授業予定	構音器官と構音障害の概要・分類を学び、構音障害の原因を学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	器質性構音障害、運動障害性構音障害、機能性構音障害を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料や教科書で構音障害の分類を見直す
		各コマにおける授業予定	器質性構音障害、運動障害性構音障害、機能性構音障害を学ぶ。		